

○テーマ設定に至る状況(情緒障がい学級:K 生)

・中学校生活が始まると共に、小学校との違いや中学校での学習の難しさに直面した K 生。学習に対してマイナスイメージを抱くようになり、1学期は授業に気持ちを向けることが難しく、寝たり本を読んだりする姿が増えてきた。また、「なんで学校にこなさなきゃいけないんですか」「学校なんてなくなればいい」とマイナス発言が多くみられるようになった。その要因としては本人の障がい特性による原因が考えられるが、その困難を少しでも改善し、学校生活や学習に前向きな気持ちで取り組む姿を目指したいと考えた。

【生徒の姿】	【その原因・障がい特性】
・中学校の勉強の難しさを感じ、学習についていけるか不安である	・目よりも耳からの情報が得意 ・読むことに障がいがある ・多くの情報を処理しきれない
・授業の中や問題を解く場面で、時間を意識して解くことが難しい。	
・学校で出されたテスト計画表を作成することが難しい。 ・自分で計画を立てて問題集の学習をすることが難しい。	・同時処理が苦手
・自主学習の習慣がない ・問題を時間内に解く意識を持つことが難しい。	・自己コントロールの弱さ

○各学期の取り組み(4学年情緒障害学級の生徒:K 生)

学期・支援	目標	生徒の姿
1年1学期	○中学校の生活に慣れる。	勉強についていけないことを何度も口にするようになる。授業で寝たり、本を読んだりすることが多くなり、学習に対して気持ちを向けることが難しい。
	○テストを知る。	テストの結果で親にひどく怒られた。でもどうしていいかわからない。
支援	<p>「学習習慣の定着を~わからない状態からわかる・できる状態へ~」</p> <p>・毎朝のコグトレ課題の準備 ・英語、理科での学習スタイルを変えていく</p> <p>★一人一人に合わせた学習スタイルの確立 ★自分の理解や努力の成果を確認できるように ★スモールステップの教材・書くことを減らす教材等を</p>	<p>計画的に進めることはできないので</p> <p>→毎日宿題を出す →毎朝課題を用意しておく</p>
1年2学期(前半)	○朝の時間・休み時間の学習習慣の定着	毎朝登校後に学習に取り組むようになる。コグトレプリントの取り組み方が分かると、自分で問題を解いて、ファイルに閉じることができた。朝学習には抵抗なく、毎日取り組み習慣化していった。教師がいなくても一人で学習を進めることもできた。
	○テスト対策をやってみる・目標をもつ	テストに向けて、自分の中で目標を持つようになった。「英語の単語テストで○点を目標にしています。理科のテストで○点を狙っているんです」と教師に伝える姿が見られるようになった。
		テストって勉強すれば点になるかも!授業への意識も変わり始める。

支援	<p>「本人にとって理解しやすい内容、得点につながりそうな部分を精選」</p> <p>★計画的に学習するのは難しいが、日々学習できるページ数や教科を一緒に確認する。</p> <p>★問題集のテスト範囲該当箇所に付箋で印をつけて置き、学習し終わったら付箋を外していくようなスタイルの確立</p>	
1年2学期 (後半)	○テスト対策に向けた 問題集への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・単元プリントの宿題は必ず出すようになってきた。 ・英語の小テストの練習問題も宿題に出すと必ずやってくるようになった。 ・授業の中で「ここテストにでるよ」「ここは大事だよ」と言われた途端、友達と目配せしたり、表情がきりっと引き締まったり、プリントに赤線を引く姿が見られた。 ・フラッシュカードで見ること・話すことを同時に必要とされる活動で、集中力が増した。(書く負担が減ることが本人の学習意欲の向上につながったのではないかと推察される。) ・朝学習のファイルが教師が机に置き忘れてしまった時には、「先生、今日はやらないんですか?」と自分から学習を行うことを伝えてくる姿があった。
今後の目標	○自宅学習の定着 ○朝学習の継続 ○自分で決めて取り組む学習(やる教科・範囲等)	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題の提出や朝学習が定着してきたので、今後は、宿題に取り組むだけでなく、その他のテスト勉強などの学習を自分から進んで取り組めるような姿を期待したい。 <div data-bbox="767 949 1469 1021" style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;"> 今日はこのプリントを宿題にするから、その他は…… </div>

※上記の流れで、K生は1学期よりも学習に取り組む姿を確立してきています。研究授業当日は、日常的に生徒たちが取り組んでいる朝学習の内容を授業の中で行う予定です。事前に以下の内容をご確認下さい!!

○朝学習で行う内容がコグトレプリント(3~5枚程度)、テスト範囲のドリル学習が小問1~2問程度なので、実際に50分授業の中で本人たちが同じように課題を行うと、時間がかかり余ることが予想されます。いつもの内容よりも多くやることや、時間が変わっていることだけでも気持ちの変化がありますので、朝の時間と同程度の内容で行いたいと考えています。★前半:自立活動 後半は:ビジョントレーニングや自立活動教材を使って活動する時間にしたいと思います。ご承知おき下さい。

○なぜ朝学習なのか……?

本校の情緒障がい学級生徒はあくまで原学級に所属していて、朝の会、帰りの会も原学級で過ごします。学活や白鈴の時間も基本的に原学級で学習しているため、担任北原拓と過ごす時間は技術の授業の時間(週2時間)しかありません。1年次後期は技術から家庭科に変更になったので、授業を行う時間が実質ない状態になりました。そのような状況の中で、朝の時間や休み時間を有効に活用し朝学習を行うように仕組みました。

○コグトレ・ビジョントレーニングを行っている理由は……? どう変わるのか?

認知機能が低いために学習につまずいた子ども達や身体的不器用さがある子ども達は、自己肯定感が低下し、あらゆる二次障害のもとになっていました。コグトレをたとえ一日5分でも継続的に取り組むことで、認知機能が大きく改善し、学習や運動面で「できる・できた!」という達成感を味わうことで、笑顔とやる気を取り戻すことができました。発達障害の子どもが多くいる医療少年院でのエビデンスが報告されています。

もっと詳しく知りたい方は、参考資料をご覧ください。